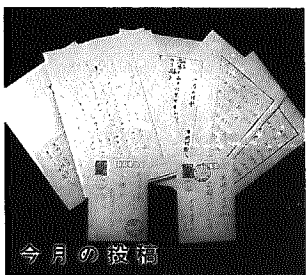


# 街かど

- 募集しています
  - 短歌
  - 俳句
  - 詩
  - 随筆
  - イラスト
  - 写真
  - まんが
  - その他
- 町への意見や要望も受け付けます
- 文章は苦手という方は連絡を取材に行きます
- 匿名もよいです
- 投稿・連絡先は黒崎町大野郵便局「街かど」係
- ☎373-1001



## 短歌

黒崎短歌会

岩陰の広きに坐せる石地蔵迷い来し我を微笑みて迎う 泉井 ヨ子

減反の上に自由化迫るなど稲はひたすら穂を出しにけり 長谷川トリ

還暦の記念に集うクラス会大方は髪白くなりたり 大矢 キイ

納得の行かない日々をひた走る世相を追い我も生き抜く 山田 卯八

己が背文柱にきざむ孫が来る夏休み近しと老我は待つ 柴垣 きみ

選考場でありしと印す木杭あり何年前のことか知らねど 永田キヨイ

梅雨のままだけになりしと思うまで風鈴に吹く風ひびくし 上山 恵子

四メートルの巨大の魚が棲むというここ高浪湖いたく静けし 笠原 セツ

転作の枝豆出荷に休みなく働く嫁よ体いたわれ 大谷 モト

## 俳句

黒崎俳句会

姫川の溪谷ながめ美しき水の流に時忘れいつ 宮田 みい

病む足は早くおせとこまこまと言いくるる母七十四才 阿部 浄子

土用に入りて漸く蟬を見ぬ向い家の壁に一つとまれる 堀内 昌江

梅雨晴れに青葙つづく川の辺に屋敷の花風にゆらめく 小出美喜子

頭を壁に突き立てられてなお足掻く泥鰌見て過ぐ土用丑の市 伊藤 一男

思ふ事叶わぬままに秋立ちぬも 代 賀

風が出て芋の葉の露あそばせる木槿より萩に移りしせせり蝶 ともよ

朝餉には間にあい大根時いて来し 正 二

踊る姿おくれおくれと団扇打つ みどり

魂棚を雨す鉄鬼の団子練る 志 治

遊女句碑こぼれはじめの百日紅 美 芳

熟れトマト立ち枯れ枝にしがみつく 多 佳

蛸のはげしき中に納骨す 静 水

稲穂波手でこぎ分けて稲を見に ちちろ鳴く妻の実家は隣町

秋拾帯をきりりと結びけり 敏 郎

手に取れば花はやさしき茗荷かな 洋 子

内陣に切子灯籠吊られあり 史 子

噴水の水輪広がり風生まれ 舞 子

風を呼び風を送りて萩の花 義 男

露草の露そのままに活けにけり 麻 世

文月や始めて知りし野菜の日 智 恵

ふくらめる胸ひるがへし秋燕 北 魚

残暑よしこれで八分の作となる 一 翠

水打って風通しよき町に住む 素 明

枝拂わぬ並み豊かな熱れ柘榴 小松とし松

秋まつり子供みこしのあどけなき 小林 くに

一天の夕日の心無刀取 梅 里

## 万代橋を目指して、川下り

黒崎町に越して来て以来、中の川、信濃川をゴムボートで下ってみたいというのが私の念願でした。第一回は昭和六十二年八月、白根から七種まで、第二回は平成二年七月、七種から新大野まで下りました。そして第三回は今年

の八月十五日、終戦の日に敢行しました。当日は五時半出発。新大野前の川端を離岸したのが六時十分。前のお菓子屋さんのお母さんが手を振っての見送りです。さわやかな朝の光、そよ風に乘って、いよいよ万代

## 粕谷欽二(興野四)

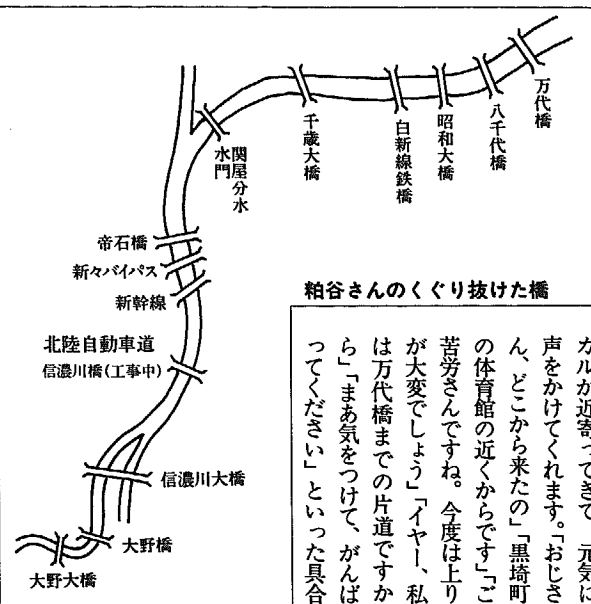
橋を目指し、航行を始めました。体育館の青い大屋根が次第に遠ざかっていきます。中の口の洋々たる流れをゆつくりオールを漕ぐとボートは気持ちよく進みます。国道八号線の大野大橋をくぐります。万代橋までいくつ

でも高いように思っていたのですが、水上から見るとそれほど高くは見えません。さらに下っていくと、いよいよ信濃川との合流点にさしかかります。鷺ノ木島の最端部では土盛り工事が行われていますが、どのように利用されるのでしょうか。

ここで川幅はぐっと広くなり、流れはますますゆったりとします。オールを休めて景色を眺めていると、確かに流れているのがわかります。しかも波はほとんどありません。下流から二人乗り、一人乗りの「スカル」が水すまし

のようにスイスイとやっています。その中の一人乗りのスカルが近寄ってきて、元気に声をかけてくれます。「おじさん、どこから来たの」「黒崎町の体育館の近くからです」「苦労さんですね。今度は上りが大変でしょう」「いや、私は万代橋までの片道ですから「まあ気を付けて、がんばってください」といった具合

## 粕谷さんのくぐり抜けた橋



上/大野大橋を上流から 下/関屋分水の信濃川水門を通過、ふりかえって

親松の排水機場の前を通り過ぎると、新幹線、新々バイパス、上水道の送水管が見えてきます。それらをくぐると帝石橋で、老朽化した現橋に代わって新しい橋脚がほとん

ど出来あがっています。このあたりから川幅はぐっと広くなってきます。平島の排水機場、西川の水門が左手に見えてきます。この辺へ来ると分水方面から浜風に乘って潮の香りがふんと鼻をつきます。

前方に分水の青いゲートが見えてきました。広い水面も水門ゲートのところではぐっと狭くなります。右端の狭いゲートはごみがいっぱい通れず、次の大きなゲートの下を通ります。この辺りは流れがあつて渦を巻いています。波に逆らわれないように、流れにまかせて下ります。ゲート

を通過して後ろを向くと、信濃川水門と大書した文字がくつきり浮かび上がって見えます。時々、下流からエンジン付の釣船が上がってきて、そのたびにどんぶらこボート

が揺れます。県庁に近くなると、岸壁にレジャーボートが係留されており、少し離れて進みます。千歳大橋をくぐると、次は白新線の鉄橋です。列車が通るとゴロゴロと大きな音がします。この橋の下の通過は十時三十分。左手に新潟市の体育館、県民会館、音楽文化会館などがあります。昭和橋を通過し、次の八千代橋通過は十一時七分。いよいよ万代橋です。それまでは右岸寄りを航行していたのですが、上陸は万代橋西詰めに思っていました。しかし、そこはレジャーボートの教習区域であり、危険防止のため早く退避してくれるようにとのこと。余儀無く右岸寄りに戻って、右から二つ目のアーチの下をくぐります。時に十一時三十分でした。正午前に通過とは考えていなかったで割合早く来たのに驚きました。

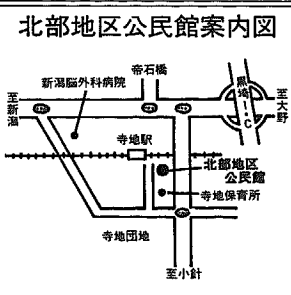
白根、新潟間のボートでの川下りはこれで終わりですが、二度とこのようなことはできないでしょう。幸い事前の準備がよかったこと、また天候に恵まれたことで、本当にラッキーでした。前から計画していた一つの大きな目的を達成した喜びはまた格別です。

## 北部地区公民館 催し物告知板

☐日時 公民館内 公民館対象 申し込み ☐問い合わせ

## 長岡歴史散歩

☐城内下町として発展してきた県内第一の都市の歴史を訪ねます。☐10月23日(水)午前8時50分 北部地区公民館集合、午後4時帰着の予定 ☐宝生寺(木喰上人作 三十三観音) ☐悠光山公園(郷土資料館) ☐昼食、吉乃川酒蔵(酒蔵記念館) ☐妙見壇(妙見記念館) ☐参加費 3000円(食費代) ☐入館料、交通費) ☐定員 55人 ☐10月11日午前9時から北部地区公民館へ。電話でもよいです。(☎232-1007)



## 版画 手作り 年賀状

☐今年はお出しませんか。だれでもできるやさしい年賀状版画教室です。☐11月7日、28日の毎週木曜日午後7時~9時(4回シリーズ) ☐小学校4年生以上、定員15人(申し込み順、小学生は保護者同伴) ☐参加費 500円(材料費、板、絵具など) ※彫刻刀をご持参ください。☐講師 金子敏美さん ☐北部地区公民館 (☎232-1007)

## 外国の家庭料理 教室

☐は定員に達しましたので、しめらせていただきます。またの機会をご利用ください。

## テレカの落とし物

☐9月6日ころ、役場1階で相互技術(株)創業20周年記念のテレホンカードです。☐役場企画商工課(内線336)

## 家庭看護相談会

☐排泄の介助について考えるビデオの上映、介護用品の展示、介護の実験を体験、など ☐10月30日(水)午前10時~午後1時 ☐巻国民健康保険病院会議室 ☐関心のある人はどなたでも ☐巻国民健康保険病院 婦長室 ☎0256-172-3111